

仙台市

地域活動の事例紹介

おらほ！のまちづくり

目次

お薬師さんの手づくり市【木ノ下地区】	1P
とうちゃん集まれ！！～自然と夢をつむぐまちへ～【東中田地区】	2P
あんしん安全のある町～松陵・永和台・百合が丘～ 【松陵・永和台・百合が丘地区】	3P

まちづくりの ヒント発見！？

地域では、いろいろな
創意工夫をしながら、まちづくりに取
り組んでいます。こ
こにご紹介する事例
が皆さんの活動の参
考となればと思いま
す。

町内会加入促進チラシ「町内会ってなに！」&
「マンションと一緒に取り組むまちづくり」絶賛配布中



お知らせ…

「マンションと一緒に取り組むまちづくり」
～地域コミュニティ形成に向けた取り組みの手引き～
を作成しました。

近年、市内でも数多くのマンションが建設されていますが、より良いまちづくりの実現には、マンショ
ンにお住まいの方も含め、地域全体で取り組む必要があります。そのためには、マンションにお
住まいの方に対する近隣町内会からの働きかけが重要です。

この冊子は、近隣町内会の皆様によるそうした取り組みを支援するための手引きとして作成した
ものです。

この手引きでは、マンションにおける町内会の加入・設立やその後の町内会の活動の手法やポイ
ントについて、実際に取り組みを行っている町内会からお話を伺い、その内容を具体的な事例を
交えてご説明しています。

この手引きは各区・宮城総合支所まちづくり推進課、秋保総合支所総務課で配布しているほか、
下記アドレスからもご覧いただけます。ぜひご利用ください。

- アドレス http://www.city.sendai.jp/katsudo/1193560_2488.html
- 問合せ 市民局地域政策課（Tel.022-214-6129）



ご利用ください



発行

- 若林区役所まちづくり推進課
電話 022-282-1111（内線 6132）
- 太白区役所まちづくり推進課
電話 022-247-1111（内線 6137）
- 泉区役所まちづくり推進課
電話 022-372-3111（内線 6134）
- 市民局地域政策課
電話 022-214-6129（直通）



お薬師さんの手づくり市

～ 手づくりのもので誰かにつながる ～



“お薬師さん”で実行委員会結成へ

陸奥国分寺は聖武天皇の勅命により、全国60余国に建立された寺院の一つです。近世に入って伊達政宗公によって薬師堂が建てられ、大正11年には国の史跡指定を受けました。

「この由緒ある場所で“市”を開催することで、地域内外からたくさんの方が訪れ、創る人と使う人に止まらないいろんな“つながり”が生まれます。“市”をきっかけに地域をもっと元気にしていけないか？」また、「高齢化も進み地域の方々の買い物がますます不便になるば

かり。少しでも地域のお役に立てればと考えてます。」と語るのは薬師堂手づくり市実行委員会事務局の佐藤さん。

実行委員会は、佐藤さんのほかに会長である陸奥国分寺副住職の村山さん、木ノ下町内会会長の高橋さんやまち遺産ネット仙台代表の西大立目さんの4人の役員を中心に運営されています。まさに、地域で親しまれ地域の象徴とも言える“お薬師さん”を大事に活かしながら、地域の町内会をはじめ地域内外のNPOなど、多様な活動団体が“つながって”産声を上げた組織です。

創る人と使う人、育てる人と食べる人、まちと農村、夢と生活、過去と未来など、多様な要素がつながることで地域のパワーに！

“お薬師さん”でみんなと“つながる”

手づくり市は、薬師堂境内で薬師堂の“ご縁日”にあたる毎月8日に開催されています。

手づくり市は、その名のとおり、“手づくりのもので誰かにつながる”をキーワードに、出展者が原材料を自らの手で加工し、自らお客様とおしゃべりしながら販売する“市”です。この“市”は販売場所の提供が目的ではなく、地域内外からのお参りの方々（お客様）と手づくりを追究している創り手（出展者）が“つながり”を持ちながら、地域の賑わいを創出して地域の活力を高めていくことを目的にしているこ

とが特徴です。

手づくり市は平成20年11月に記念すべき第1回目を開催しました。当時は出展27ブース、来場者約300人でしたが、継続は力なりでコツコツと“市”を開催してきた結果、2年後には出展106ブース、来場者約1,800人という規模になりました。農産加工品、アクセサリー、伝統工芸品など出展品は様々です。「この2年間の開催で、様々な出会いと“つながり”が生まれました。当初の目的に向かってこれからも取り組んでいきたいと考えています。」と事務局の佐藤さんもだいぶ手ごたえを感じていらっしゃるようです。

事例のまとめ

多様な活動団体が連携し、地域資源を効果的に活用しながら地域の魅力や賑わいを創出しています。

出展品



いざ！“ひょうたんプロジェクト”

手づくり市のシンボルマークは“ひょうたん”です。薬師堂では“ぼんぼこ槍”の頒布を行っており、槍にはかわいい“ひょうたん”が飾られています。“ひょうたん”は古来より除災招福のお守りなどとして用いられてきました。

このプロジェクトは、「“市”の開催に加え、薬師堂や“ひょうたん”を活用して地域の魅力をさらに高められないか？薬師堂周辺にできる地下鉄東西線の駅のイメージ作りに一役買えないか？」と実行委員会で考えたのがきっかけで、平成21年4月から始まりました。

当面は地域の方々などと実行委員会が協力して“ひょうたん”を栽培したり、出展者に“ひょうたん”をモチーフにした作品などを出展してもらうことに加え、実行委員会オリジナルの“ひょうたんグッズ”も製作すること。「今後とも手づくり市を中心に様々なプロジェクトを組み合わせることで、さらに地域の魅力や賑わいを創出し、もっともっと地域を元気にしていきますのでご期待ください。」と事務局の佐藤さん。

毎月8日の午前10時から午後3時まで売切れ御免で賑やかに開催しておりますので、皆さんも是非足をお運びください！！



とうちゃん集まれ!! ~自然と夢をつむぐまちへ~

かにっことうちゃんS'

みんなで一緒に楽しんでいます!!

「今の時代は父親も母親も忙しく、子どもと過ごす時間が少なくなっているのではないかと感じます。この活動に参加することでより親子の絆が深まるように手助けがしたいです。」と語る「かにっことうちゃんS'」代表の菅井さん。

東四郎丸児童館で「父親を活用したネットワークづくり」事業を受託した際に集まったお父さんたちが、ここで終わらせてはもったいないと思いつ立ち、「かにっことうちゃんS'」を発足させました。

薪を使っの野外炊飯や川に入って遊んだり身近な自然を生かした「名取川探検」など様々な親子での体験型イベントを行っています。

「参加者とスタッフの垣根はありません。私も孫を連れて一緒に遊んでいます。何より大事なのは、子どもたちとお父さんたち、そしてスタッフと、みんなが一つになり遊ぶで楽しむこと。その中で協調性や地域愛を育ててもらえたらと思います。」

参加者とスタッフの関係ではなく、お互いにどうすれば楽しくなるか考え行動する。そして一緒になって楽しむというスタイルが、イベントの魅力を高める要因の一つになっているのかもしれない。



父ちゃん大活躍

「児童館に親子でお泊りをするイベントではドラム缶風呂を作りました。子どものために作ったのにお父さんたちも入りたいと言い、実際に入ってしまった。子どもよりお父さんの方がはしゃいでいたかもしれません。お父さんたちは、私たちでは思いつかないようなアイデアをたくさん持っています。」と事務局の小岩さん。

「イベント中のお父さんは子どもを前に一生懸命です。家では見られない姿に子ども『父ちゃん、カッコイイ!』と感じていると思います。そしてお父さんも我が子の一人前な姿に驚いている

ようです。」お互いに家庭の枠を飛び越えると普段とは別の顔を見せるようです。

かにっことうちゃんS'のスタッフ会議もかなり賑やかな様子。肩肘張らないフランクな雰囲気の中での会議ではアイデアが次々に溢れ出て、一つにまとめるのが大変なくらい。イカダを作って名取川に浮かべて遊ぶ計画もあるそうで、今後の活動から目が離せません。

お父さんたち大活躍の
昼食づくり。子供たちは
待ちきれない様子



事例のまとめ

親子参加型イベントの開催を通して親子のみならず父親同士、子ども同士の交流の促進と故郷づくりに取り組んでいます。



地域とのつながりを育てていきたい

お父さんたちは仕事と家の往復で地域とのつながりを持つことは難しいようです。

参加者の今野さんは「親子のコミュニケーションが増えただけでなく、この活動に参加したことで地域とのつながりを感じることができました。父親たちが参加しやすい新たなコミュニティの形ではないでしょうか。」とおっしゃいます。

お父さんたちも地域の中に知り合いが増えたことで、つながりを感じているようです。まだ挨拶をしたり世間話をする程度ですが、少しずつ、しかし着実に地域の絆が深まっています。

最後に、代表の菅井さんに今後の展開について

教えていただきました。「東中田地区は恵まれた自然環境の中にあります。今後は名取川をはじめ周辺の畑や田んぼなどを一層活用していき、みんなに『ここが故郷である』というイメージを持ってもらえるような活動をしていきたいと考えています。そして私たち自身も無理せず、徐々に活動の幅を広げていきたいと思っています。」

この地区には、大洪水で流されそうになった落合観音をカニたちが守ったという「カニ伝説」が伝わっています。「かにっことうちゃんS'」の名前はここに由来しています。



みんなで作った
ジャンボのり巻きの
長さはなんと
5.2メートル



あんしん安全のある町 松陵・永和台・百合が丘 松陵・永和台・百合が丘連合町内会

加美町の営農組合との災害協定

松陵・永和台・百合が丘連合町内会ではあんしん安全の町をテーマに様々な取り組みを行ってきましたが、今回は平成22年に新たに行った2つの取り組みについてご紹介します。

一つ目は加美町小野田地区の上区域内集落営農組合との『災害救援活動の相互支援に関する協定』です。連合町内会単位でこのような協定が締結されるのは全国的にも珍しいものです。

「この協定は災害時に都市と農村が互いに助け合うというもので、いざという時の心の拠り所

ができ、安心感が生まれました」と語るのは協定書の素案作りを検討してきた連合町内会長の宗片さん。

協定の主な内容は、互いの強みを活かしたもので。連合町内会からアマチュア無線や看護師などの有資格者の人的支援。加美町から食料や飲料水、救護活動に必要なトラックやトラクターなどの車両、資材の提供や人員派遣が盛り込まれています。また、費用は原則として支援をする側が負担することとしており、ボランティア活動としての側面が強いものとなっています。



事例のまとめ

日頃のコミュニケーションが地域のつながりを強め、安心・安全のまちづくりにつながっていく。「地域力」が実感できる町内会です。

加美町との交流は、平成14年にグリーンツーリズム事業の体験学習として松陵中学校の生徒を小野田地区の農家が受け入れたことをきっかけに始まりました。その時に生徒を受け入れた農家から松陵地区の町内会とも交流をしたいとの希望が伝えられ、その後、地域の祭りや運動会で農産物を直売したり、連合町内会が窓口になって新米を販売するなど、地域間の交流が発展していきました。イベントなどで顔が見える関係を築いていくうちに、互いの信頼関係が高まっていった結果、協力体制ができあがり、地域の課題であった「地域の防災力の強化」につながったのです。

今後も、連合町内会統一の防災マップづくりや、災害時に協力してもらえる有資格者の確保など災害時に即応できる体制づくりを強化していきたいと考えています。

松陵音頭でふるさとづくり

連合町内会最大の行事「松陵夏まつり」。25周年を迎える平成22年の夏祭りには地域で歌詞を公募、製作した『松陵音頭』が披露され、盆踊りの輪が二重になるほど多くの人が参加し、これまでにないほどの盛り上がりを見せました。

この「松陵音頭」は地域の子どもにとって一番の思い出となる「ふるさとのもつりをつくりたい」と連合町内会で考え、4年がかりで製作したもので、曲や振付けも地域の業者に依頼し、平成21年12月に完成しました。その後、子供会や小学校、老人会や松陵さくら会(※)などの協力を得ながら、様々な場を活用して曲と振付けを紹介し、地域に広げていきました。

地域でつくった音頭がきっかけとなって老若男女を問わず、みんなが自然にふれあい、踊りの輪を通じて世代間のコミュニケーションが進んでいきました。今回の夏祭りは、より熱い住民同士の心の交流があり、宗片会長が想い描い

ていた温か味のある「昔ながらの田舎の原風景」がありました。

連合町内会では、これからも、顔が見える付き合いを大切に、防災や福祉に力を入れ、地域で子どもを育てていける環境をつくりたいと考えています。



松陵音頭 (1番抜粋)
桜吹雪のまなびやに未来を託する
子供たち(こ)が育つ ~中略~
さあさ躍ろう輪になって
松陵音頭をにぎやかに(繰り返し)
(o^)/

※松陵さくら会とは・・・

地域の有志が集まって、地域活動やボランティア活動を行っている団体。集団資源回収による奨励金などを財源に幅広く活動しています。